【日本の大学】第 60 回――聖路加国際大学：看護界のリーダーを育成

聖路加国際大学はキリスト教精神を基盤として、私立大学として日本で初めて看護学部を設置し、大学院で看護の博士後期課程を開設するなど、看護界のリーダーや指導的人材を育成してきた大学である。

淵源は 20 世紀初めの 1901 年に米国聖公会の宣教医師であるルドルフ・ボーリング・トイスラー博士が創設した聖路加国際病院にさかのぼる。その後、博士は日本の医療水準の向上とともに看護の質を高める必要性から、1920 年に、看護教育の経験豊かな米国人ミセス・アリス・C・セントジョン女史を校長に招いて聖路加国際病院附属看護婦学校を立ち上げた。看護教育の先駆けであり、2020 年には看護教育百周年を迎えている。

聖ルカ礼拝堂（チャペル）

銀座に近い都心に立地

以下、聖路加国際大学のホームページなどから、大学の歴史と現状をみていこう。

大学はイングランド国教会の流れをくむ日本聖公会系のキリスト教主義ミッションスクールである。名称は「ルカ福音書」の聖ルカ（St.Lukes）に由来する。

大学のキャンパスは東京の繁華街である中央区銀座に近く、水上バスが往来する隅田川にかかる勝鬨橋と佃大橋のほぼ中間地点にある。現在は超高層 2 棟からなる聖路加ガーデンのツインタワーがそびえ、その隣の荘厳なチャペルの尖塔が大学の目印となっている。チャペルに向かって左側部分が聖路加国際大学であり、右側が聖路加国際病院である。

左側部分が聖路加国際大学であり、右側が聖路加国際病院

大学ではその理念と建学の精神について次のように定めている。「キリスト教精神に基づき、看護保健・公衆衛生の領域において、その教育・学術・実践活動を通じて、国内外のすべての人の健康と福祉に貢献することを目的とする」（学則　第 1 条）

また、看護学部の理念・目的としては「看護に関する科学的知識を培い、技能の熟達と人

格の涵養につとめ、指導者としての能力をたかめ、看護の実践と応用によって看護および看護教育の進歩発展に寄与することのできる人材の育成を目的とする」(学則　第 2 条第 2 項)と規定している。

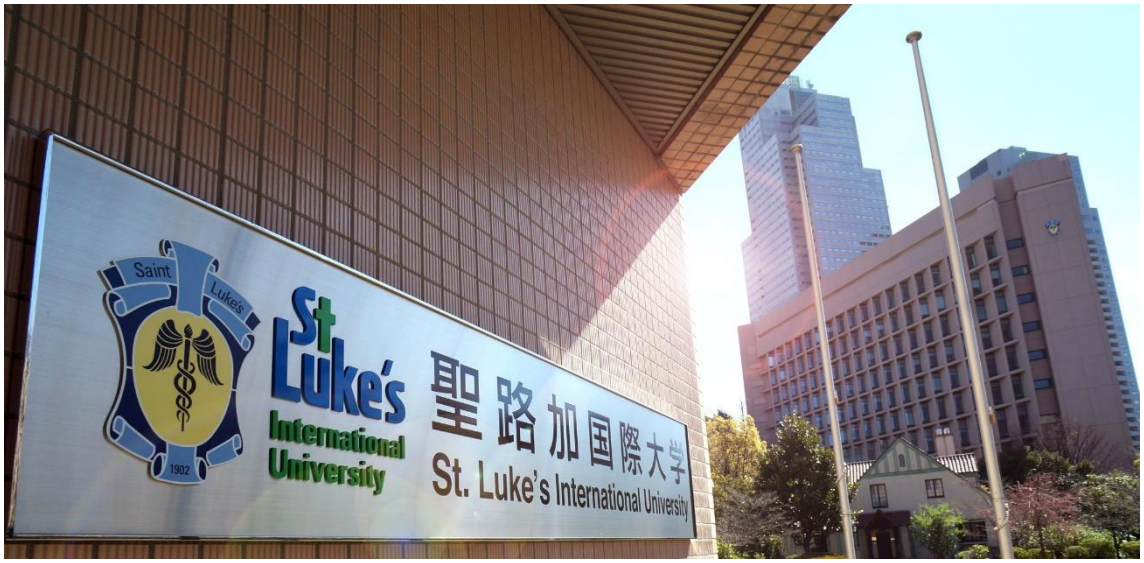
看護婦学校は現在も大学が置かれている東京都中央区明石町に開かれ、開校当初は 3 学年合計で 20～40 名ほどだったという。7 年後の 1927 年には聖路加女子専門学校となった。看護学校は、日本で唯一の最高教育機関（本科・研究科の４年制）として認可された。

第２次大戦終了後、1946 年にはＧＨＱによって聖路加国際病院と学校の建物が接収された。その際、東京看護教育模範学院の名前で日本赤十字女子専門学校との合同教育が行われた。

1954 年には、校舎が返還されて、3 年制の聖路加短期大学となった。現在のような 4 年制大学となったのは、1964 年である。聖路加看護大学の名称で、私立大学としては日本で初の看護学部 4 年制教育が始まった。76 年には短期大学卒業生を対象に編入学制度を始めた（1998 年まで実施)。大学院の修士課程を設置したのは 1980 年だった。さらに、大学院博士後期課程（博士課程）は 1988 年に開設されている。

現在の聖路加国際大学という名称に変更したのは 2014 年である。

大学は看護学部の 1 学部であり、大学院研究科は、看護学研究科と公衆衛生学研究科の 2 科の体制となっている。



看護学部棟

実習、実践を重視

看護について大学は、「実践の科学」であるとして、講義と演習で得た学びを、実践の場でどう活かすか、多くの実習からそれを体得するものである、として実習の重要性を強調している。付属の聖路加国際病院をはじめとする医療・介護施設などで豊富な実習を行い、臨床に強い看護職を育成している。

大学では、聖路加国際病院での実習指導体制について逐次見直しを図ってきており、2015年度からは実習科目を増やした。1 年次から 4 年次まで、常に看護の現場に足を踏み入れ、現場で主体的に学ぶ機会を持てる体制を強めた。

具体的な実習内容としては、1 年次の前期には、看護が良好なコミュニケーションに裏打ちされた患者と看護師との人間関係・信頼関係のもとで行われるという前提のもと、患者と看護師の関係を気づき、深めるためのコミュニケーションに関する概念、モデル、方法及び態度を学ぶ実習を実施している。

1 年次後期と 2 年次前期には、実践現場に継続的に入って、看護現場で求められるサービスの内容、提供方法を学ぶ（サービスラーニング）。3 年次後期には、成人、老年、小児、精神、地域・在宅などの分野にわたり、健康レベルと対象（患者）の特性に応じた実習を、それぞれ 2 週間ずつ経験する。そして 4 年次前期にはいろいろな分野のうち、自分が関心のあるテーマを選んで取り組む 2 週間の実習がある。学んできた知識や技術を統合して臨むことが求められるこの実習では、少人数のグループに分かれて実施され、グループの一員として、主体的に自らの役割と機能を発揮しながら働きかける能力を養う。同時に、専門科目「看護学統合」のなかで実施されるゼミナールに入って、文献学習や見学、討論、グループワークなどを行いながら、特定分野の看護についての理解を深めていく。

イベントで高齢者模擬体験

「少人数制」「国際性」に力点

大学では、教育の特色として「少人数制」、「クオリティの高さ」、「国際性」の 3 点を挙げている。「少人数制」としては、1 学年 100 名、4 学年で 400 名の学生数に対して、専任教員が 80 名以上在籍しており、一般的な他大学の看護学部の 2～4 倍の多さになる。「クオリティ」では、カリキュラムは座学・講義中心ではなく、実践重視の構成で、教室での講義の 2 倍の演習と実習がある。

「国際性」は、100 年前の開学の時から「グローバル人材の育成」に取り組んできている。開学当時はすべてアメリカ人の看護師が担当していて、当時は授業、実習記録、試験、レポートもすべて英語だった。現在は、アジア・北米の大学との交換留学・国際交流に加えて「国際奨学金」という留学費用のサポート制度があり、新しい留学プログラムも増やしている。

海外協定校は現在、11 か国 17 大学等との間に学術交流協定を締結している。アジア方面では、韓国、タイ、台湾の大学とは、相互の学部生を受け入れ、毎年 2 週間の短期研修を行っている。北米方面では 2 大学へ学生を派遣している。

ただ、新型コロナウィルスの影響によって、2021 年度からは派遣を中止している。開学

から続いてきた留学生も、現在、大学生はゼロとなっている。

大学は、これまで約 6 千名が卒業し、このうち 1 割が大学院に進学している。就職先は、聖路加国際病院をはじめ、医療機関、助産所、訪問看護師テーション、自治体、小中高等学校、厚生労働省や国際機関など看護の幅広い分野で活躍している。

卒業式

教員数は、専任教員が 83 名、非常勤教員 38 名である。学生数は学部が 457 名（一般 397 名、学士編入 60 名、うち男子学生は 6 名）、大学院 298 名（看護学研究科 233 名、公衆衛生学研究科 65 名、うち男子学生 50 名）。（以上 2021 年 9 月 1 日現在）

学長は堀内成子氏である。1978 年聖路加看護大学衛生看護学部卒、82 年東京大学大学院医学系研究科保健学専攻修士課程修了、93 年聖路加看護大学看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了（看護学博士）。聖路加看護大学助手、教授、学部長、聖路加国際大学大学院看護学研究科教授、2018 年聖路加国際大学看護学部長などをへて 2020 年 4 月から学長に就任。専門はウィメンズヘルス・助産学。

日文：滝川　進

写真：聖路加国際大学 HP＆FaceBook